

金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報

2007 May. No.14

編集・発行/金蘭会東京支部(大阪府立大手前高等学校同窓会)
 事務局/阪本弁護士事務所内
 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-2 みつわビル3F
 ホームページ/ www4.airnet.ne.jp/t-kinran/

学年だより

東京五十五会

濱口和子(昭和18年卒)

加齢と共に金蘭会東京支部総会に同期の方達の出席は少なくなりましたが、ここ数年は同じ顔ぶれでお互いの健康を確認し合っただけで済ませて頂いておられます。私共も何時の間にか八十歳を超えてしまいましたが、バードウォッチングに世界を飛び回っておられる方、又書道、絵画等見事なお手並みを展覧会に出品され衰えを知らない方々、又今年は関西の方達を鎌倉へご案内する計画もあり、まだまだ「意気軒昂」です。

総会に伺っては大勢の先輩の方達に刺激を受け、また年毎の幹事の皆様の工夫を凝らした企画、イベントを楽しませていただき、若い方々のパワーを少しでも吸収できればと考えています。今年も出席できます事を心から願っております。



Topics/News/Information

●仲間募集…二子玉(にこたま)会
 東急田園都市線二子玉川近辺に、世代を越えて集まりませんか?

「田園都市線・半蔵門線の会」が名前を変え、昨年10月15日、幅広い年代の同窓生18名でランチを楽しみました。今秋も予定しています。

連絡先 竹村 泉(昭和48年卒)
 TEL 045-984-6362
 Email 426izumi-t@e08.itscom.net

●金蘭会東京支部ホームページ
<http://www4.airnet.ne.jp/t-kinran/>
 支部の最新情報がご覧になれます。メールアドレス登録もこちらからお願いします。

編集後記
 若い会員も会報スタッフに加わり楽しく制作が進みました。会員の皆様のご寄稿、広告掲載などご協力をお願いします。本紙へのご意見ご感想、ご提案、お問合わせなどお気軽にホームページにお寄せください。

「獅子丸会の活動」
 峰村由利子(昭和44年卒)

昭和44年卒の会「獅子丸会」と言うより2000年度の横浜での総会幹事学年、と言うと記憶に新しい方もおられると思う。大阪からの多数参加も得て賑やかに舞台上に勢いよく、頼もしく楽しい思い出を頂いた。会名の由来は卒業年を漢字にした「獅子」に思い出の庭「西の丸」を重ねたという。獅子丸達は毎年一月に新年会、桜を待つ「花見会」、夏の総会後に定例会を開く。花見とはいえ「花なんか誰もみてへん」し、大声の大阪弁で飲むわしゃやるわで、周囲の関西人への響きをかうのを気にしつつ次のカラオケに突き進むのが常である。ホームページも開き各会開催のお知らせとその写真が紹介され、掲示板では個人的な思い出や近況が綴られ東西を問わず国内外の同窓生ネットワークがホットに保たれている。更なる小分科会が最も個性発揮の場だろうがそれは次回お楽しみ、としてとっておきたい。



「田園都市線・半蔵門線の会」が名前を変え、昨年10月15日、幅広い年代の同窓生18名でランチを楽しみました。今秋も予定しています。

エグゼクティブのためのワイン講座
 大坪康郎(昭和49年卒)

「海外の方と接する機会がそんなに多いのならワインの勉強をしましょう」と同期の女神の一人、合田さんの一声で2005年1月から始まった掲題講座。講座と言っても、ワインの美味しいお店に集まって、美味しいお料理とともにワインを楽しむ、絆を深めるという宴であり「エグゼクティブ」とはちよつと会費高めと匂わしている枕詞なのです。第2回に関西から出張して来たY君は、その日の会に参加予定のT君と偶然遭遇したことがきっかけでドタ入り。Y君はその後、会の日には東京出張をするという裏技を使って、この春の第10回まで出席率1位を誇っています。Y君もハマッタ会の魅力は、皆が集うことで醸し出される魔法のような大手前スパイスによるものに違いありません。東京支部総会の幹事学年をきつかけに、情報が集まり、色々なネットワークが増えているようです。

不忍池を望み、さわやかに総会

第82回金蘭会東京支部総会は2006年7月9日(日)上野精養軒で開催されました。眼下には水と緑が織りなす潤い溢れる眺望が広がる不忍の池畔の高台に位置する会場に、233名の金蘭会東京支部会員が集いました。

今回のテーマは「ピアノケース」
 今回のテーマは「ピアノケース」
 ヨン／ちよつとひといき、ポロロピアノノ懐かしい友と語りうひととき」で、当番幹事学年(昭和50年卒)の久下真理さんのピアノ演奏とトークをバックに参加者はしばし時を忘れ、おいしい食事と友との語らいを楽しみました。

大阪からは金蘭会升谷会長、斎藤校長先生をはじめ多数のかたがたが駆けつけ、会を盛り上げてくださいました。

最後は参加者全員の校歌が上野



青春一杯の総会

金蘭会東京支部部長 小田切 康幸

今年が記録的な暖冬であったと報ぜられていた。庭の梅の開花で、例年より早く、思い返して見ると、至るところで暖かい冬に遭遇した。温暖化ガスによる異常気象ともいわれ、先行き心配なことではある。

幼い頃、雪深い津軽弘前で四年間を過ごした私にとっては、雪を見ない冬は何となく、淋しい思いである。

卒業30年、BACK TO 大手前時代

田中孝司(昭和50年卒)

卒業30年目に幹事団を仰せつかった7人による第82回総会のプログラムは、場所は、不忍池を一望の森の一角に響き渡り、また来年の再会を約束していました。



そうこうするうちに、はや、第八十三回の総会が日程にのぼってきた。今年も昭和五十一年卒の方々に幹事をお願いし、御苦労をいただいている。内容は、

- 日時 七月十五日(日)
- 会場 椿山荘
- イベント 大手前今昔物語(映像)

今回の企画は、広い年代層にわたるわれわれ会員が、同じ年頃に同じ学び舎で過ごしたことで、身をつけた大手前の遺伝子・DNAを夫々に共有していることを改めて感得できるのではと思う。

古希を迎えた私にとって、青春はまさに往時となつてしまつたが、

できるクラシッくな「上野精養軒」にて、メインイベントは、同期の久下真理さんによる「ピアノケース」
 ヨン／ちよつとひといき、ぼろろんピアノ」を、お楽しみとして、フィリピンで火山灰地再生を目指して奮闘中の同期の森田剛君直送の「マンゴーの抽選」、それも抽選は、同期の島崎君デザインの「4色のプログラムによるクジ」というふうには、なにぶん盛り込みすぎとの心配もあったが、役員さんや30年ぶりに集まった同期に助けられ、なんとか無事終えることができた。

思い出すに、総会準備は本当に大変であったが、ほぼ30年ぶりにあった同期と楽しく準備を進め、また、総会では同期だけでなく先



しかし、サミエル・ウルマンの詩に曰く、「青春とは人生のある期間をいうのではなく心の有り様をいう。……人は年を重ねるだけで老いるのではなく、理想を失うときこそ、初めて老いる。歳月は皮膚にしわを刻むにすぎないが、情熱を失つたら、魂は死ぬのである。希望を失わず、前進ある限り、人生は八十歳でも青春たりうる」。

支部総会は毎年、青春一杯である。

◎略歴
 昭和30年大手前高等学校卒業
 昭和30年東京大学法学部卒業
 住友大阪セメント株式会社
 代表取締役会長

技術ベンチャーの事業化を推進するベンチャーキャピタル

Innovation Engine
 イノベーション・エンジン株式会社

代表取締役社長 佐野陸典
 〒108-0023
 東京都港区芝浦3-11-13 SUDO BLD.5F
 TEL.03-5730-6721 FAX.03-5730-6722
<http://www.innovation-engine.co.jp/>

(昭和45年卒)

金融専門翻訳 外国株式・クレジット・デリバティブ等

FTJ
 (株)エフ・ティー・ジェイ
 代表取締役社長 岸 三枝子

〒152-0035 東京都目黒区自由が丘2-1-3-102
 TEL.03-3724-5797
 E-mail:ftj@hh.ij4u.or.jp

(昭和43年卒 旧姓: 楡山)

株式会社ジャパンエナジー

常務執行役員 水島製油所 所長 木村 政信

(昭和43年卒)

医療法人社団 仁愛会歯科

理事長 奥村 弘一郎

自由が丘クリニック(自由が丘駅南口スグ) Tel.03-3724-7741
 日吉クリニック(日吉駅西口前) Tel.045-563-8341
 武蔵小杉クリニック(JR武蔵小杉駅北側) Tel.044-738-4618
 綱島台クリニック(綱島公園北側) Tel.045-542-0140

診療時間 ■10:00~13:30 14:30~18:30 休診日 ●日曜・祭日・木曜
 (昭和30年卒)

生活習慣病予防の基本的考え方



東京医科歯科大学名誉教授
前国立健康・栄養研究所理事長
田中 平二さん
(昭和34年卒)

昭和40年大阪市立大学医学部卒、49年同大学助教授、60年東京医科歯科大学教授、平成13年国立健康・栄養研究所理事長、17年聖徳大学教授。日本学術会議会員、日本疫学会・栄養食糧学会・栄養改善学会理事長、薬事食品衛生・厚生科学審議会委員等を歴任。日本衛生学会他7学会賞受賞。

田中 平二さん

生活習慣病の進展を簡単に示しますと、次のようになります。
循環器病・①不適切な生活習慣・②危険因子・③冠動脈性心疾患、脳卒中・④死。
①不適切な生活習慣・②早期がん・③進行期がん・④死。
生活習慣としては、栄養・食生活、身体活動・労働、休養・睡眠、

喫煙、飲酒等が重要です。ある因子を保有している人は保有していない人よりも病気に罹患する確率が高いとき、その因子を危険因子と言います。肥満、高血糖、高脂血症、高血圧等で、内臓脂肪型肥満に加えて後三者の2個以上持っているメタボリックシンドロームと呼んでいます。

さて、上記の①から④への進展には、不適切な生活習慣とともに老化(加齢)が大きく関与しています。このため、誰一人として生活習慣病を避けることは出来ません。危険因子を保有していても、すなわち血圧や血中脂質や血糖が高くなってきても、あるいは早期がんが罹患していても自覚症状がないのが普通です。白髪やシワが増えてきても痛くも痒

くもないのと同じです。このため、健康と想っているときに健康診断や人間ドックを定期的に受けなければなりません。②の危険因子と早期がんを早期発見し、③から④への進展を抑えるために、服薬、栄養・運動指導、禁煙、節酒等、またはがんの切除を行います。

しかし、危険因子を保有する確率の高い人、がんが罹患しやすい人には、生活習慣に問題のあることが次第に明らかになってきました。このため①と②との間の予防が可能となってきましたので、成人病が生活習慣病と改名されたのです。

次は日本人横綱を



長岡 恵さん

(昭和56年卒)

昭和60年大阪市立大学生活科学部児童学卒。61年大関朝潮と結婚。「外国人力士はなぜ日本語がうまいのか」「おかみさん学 なぜ人を育てるのがうまいのか」などの書籍でも紹介されている。*稽古の見学歓迎。前もってご連絡を。03-5608-3223 http://www.2s.biglobe.ne.jp/~wakamatu/index.html

「今宮戎の福娘」が、大学卒業して間もなく人気力士と結婚、大関(二代目朝潮)夫人になった。全く縁のない相撲界に「なんとかなるわ」と決心した」とほほ笑む。とはいえ当初は慣れないことも多く、5年を過ぎるまで、「明日こそ大阪へ帰ろう」と思う日々が続いたという。今では、力士の奥さ

私たちのよき相談相手、古いしきたりを守りながらも進歩的な考えのおかみさんとして信頼は篤い。力士ら32人を抱え、横綱朝青龍を擁する高砂部屋をまとめたおかみさんの役割は大きい。時には、母代わりにやさしく声をかけ、地方出身の若い力士たちの淋しさや悩みに細やかに心配りする。外国出身者が増え、今までにない気遣いも必要になった。日本人と同じような容姿なのでモンゴル出身力士にうっかり早口で話しかけ、理解されていなかったことがあった。また、おにぎりを食べない理由を聞けば、黒い紙のような海苔がだめだったり、と文化の違いを知る必要性を実感した。力士を世話していくなかで、「教えられるこ

とがたくさんあり、おかみさんとして成長させてもらっていると思う」と話す。

平成15年3月の横綱誕生で、親方とおかみさんの夢がひとつ叶った。大関で引退した親方の横綱を育てる苦労は計り知れないが、朝青龍を立派な横綱として精進させ、次は日本人横綱を育てることが目標という。



(取材:会報編集委員)

からも福娘の頃と変わらぬ笑顔で益々の活躍を期待したい。

Member's Voice Tokyo Kinrankai

II (アイアイ) 会の友

新井(長谷川)淑子(昭和34年卒) 昭和34年卒の同窓会の全体会は一年に一度、東京では忘年会、新年会、歩こう会、東京下町文化を見る会等など年間通じて和やかな会を催しています。ちよくちよく顔をあわせるようになったのは定年近くなった七、八年前頃からです。四年ほど前、同級生の市田行則さんのご尽力により、銀座TEPCOで私の仕事の集大成のような展覧会を開催し、それに引っかけ東京勢が同窓会を開催してくれました。

私は、東京オリンピックの年に上京して大学時代の友人三人と美術造形のグループを作ろうと共同生活を始めました。油絵を描いていたのに生活手段の一つとして七宝焼を作ったり、教えたりして気

が付いたら油絵をやめていました。近頃では、漆と七宝の融合の「うるしっぽう」、ガラスに七宝を焼き付ける「ガラス胎七宝」、ふしぎな輝きの「きらえくら」、楮和紙にガラスや七宝、メタルなどを漉きこんで明かりに仕立てる「アントルパピエ」など様々な仕事をしています。

年に何回かの展覧会には同窓生が見に来てくれて、作品をコレクションしてくれま。芝居やコンサート、同窓会で会うと皆、私のアクセサリを付けていてくれて、ちよっぴり気恥ずかしいですがほんとにうれしく、持つべきものは友と感激しています。六十六年も生きていると人間関係が増えますが、大手前時代の友達は頻りに会わなくても会うと心がなごむほんとは良い友達関係を続けていける

貴重な存在です。

癒しの大沢温泉

嶋田 良雄(昭和41年卒)

レジオネラ菌や「ニセ温泉騒動」以来、循環風呂でない「本物温泉」への希求が高まっています。以下本稿では「本物の源泉かけ流し温泉」にご案内いたします。

一般的に「源泉かけ流し」とは、温泉施設所在地にある源泉から直接引いた温泉だけで浴槽を満たし、浴槽に一度入ったお湯は再利用せず使い捨て方式をいいます。温泉を堪能するのにこれほど贅沢なことはありません。で、お奨めは、岩手県・大沢温泉。「花巻温泉郷」の一つで、花巻駅からバスで半時間、山の湯情緒たつぷりの温泉場です。この宿は、新館「山水閣」、築二百年の旧館「自炊

部」、そして、茅葺き屋根で築百年の「菊水館」から成り、合計百三十一の客室を擁します。渡り廊下や橋が繋がれた五つの温泉めぐりができますが、一番人気は、混浴露天風呂「大沢の湯」。浴槽は広く様々な湯客が次々と入ってきます(若い女性も堂々と……)。泉質は硫化水素泉(PH9.2のアルカリ性単純泉)。無色透明で、肌がぬめります。湧出量は毎分三九四リットルで、泉温は五十一度。

春の桜、新緑から深緑、紅葉、そして冬の雪景色と、四季折々に周囲の樹木が湯に味わいを加え、夜に浸れば、満天の星と菊水館の明かりなどで幻想的な感じも、正に極楽。宮澤賢治・高村光太郎がよよく愛した宿でもあり、パンフレットに使う「ゆ」の文字は、あの「相田みつを」が大沢温泉に寄贈したものとことです。皆様も一度訪ねてみてください。

大手前高校創立120周年を祝って

昨年11月2日、大手前高等学校創立120周年の記念式典(高校主催)と同じく記念祝賀会(金蘭会主催)が開催されました。式典(在校生参加)は大阪国際会議場でとりおこなわれ、続いての祝賀演奏会は、大阪シンフォニカー交響楽団(指揮:寺岡清高氏)と関西二期会合唱団による「フィガロの結婚」やワーグナーのオペラ「タンホイザー」合唱など豪華なものでした。特にオーボエ奏者の古部賢一さん(62年卒)の華麗な演奏とお話は、参加者を魅了



祝賀会は、隣接のリーガロイヤルホテルで午後6時すぎに始まりました。参加者は金蘭会会員を主に約460人、昭和4年から平成4年まで実に70年近い世代を越えての楽しい懇親のひと時でした。教員、教頭、そして校長(第13代)を務められた坪井明先生は90歳を越えるご高齢にもかかわらず「金蘭」のいわれを自らマイクを握って披露されました。最後にペラルーチェ弦楽四重奏団による素晴らしい伴奏で校歌を斉唱し、記念祝賀



江田龍咲(昭和50年卒)

会は終了したのでした。

●支部会計報告(平成17年度) 平成17年1月1日~12月31日

収入の部	金額(円)	支出の部	金額(円)
前年度繰越	5,668,199	総会補助費	163,351
支部会費(内訳)	890,000	支部運営費(内訳)	214,982
終身会費分	765,000	会議費	10,458
年会費分	125,000	事務所使用料	60,000
		会報印刷代	63,900
雑収入	80,000	通信費	11,035
貯金利息	31	HP費用	22,680
		雑費	46,909
		次期繰越金	6,259,897
合計	6,638,230	合計	6,638,230

●金蘭会東京支部データ

会員数	2,722名
女性	1,264 46.4%
男性	1,458 53.6%
卒業年代構成	
~大正15年	18 0.7%
昭和元~10年	103 3.8%
昭和11~20年	277 10.2%
昭和21~30年	341 12.5%
昭和31~40年	678 24.9%
昭和41~50年	806 29.6%
昭和51~63年	401 14.7%
平成元年~	94 3.5%
教職員	4 0.1%

- 前田 卯の子(T10) 石津勝子(S7)
中川 君重(T11) 黒川久栄(S7)
大城重美子(T15) 吉田美登里(S9)
佐分利 柳子(S2) 柳田安子(S10)
菅野 瑞子(S4) 川端 薫子(S12)
祖父江 秀子(S4) 前田 久布(S12)
吉川 美知(S4) 小澤 優子(S19)
岡司 禮子(S6) 金田 康子(S28)
井深 和子(S6) 三好 陽子(S41)
漆原 正子(S6) 鎌田 昇(S42)
佐藤 正子(S6) 井村 容子(S50)
- 敬称略(内は卒業年)

平成17年8月から平成18年7月にご連絡をいたした第82回総会にてご報告・黙祷いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

*数字は2007年4月6日現在